

シシトウ

でこぼことした起伏のある形が獅子の顔をイメージさせることから別名シシトウガラシとも呼ばれます。辛くない品種ですが、まれに凄く辛く、まさに唐辛子その物といったものもまぎれていたりします。

5月の農作業

作型

早い時期から収穫するには、購入苗をトンネル栽培するとよい。日光トウガラシやスピノーザの緑果はシシトウとして、赤くなったらトウガラシとして利用できる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え					△		■	■	■	■	■	■	ししとう、伏見甘長 日光とうがらし、スピノーザ

△：植え付け ■：収穫

畑の準備(実生植)

土づくり a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	10~15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
醗酵鶏糞	50kg
野菜専用肥料	5kg
畝立時施用	

- 畝幅160cm
- 株間80cm (2条植、千鳥植、条間80cm)
- 畝高40cm

植え付け

- 5月上中旬頃、暖くなってから植え付ける。(トンネル被覆を行うときは4月中旬頃から植え付ける。)
- ポリマルチは降雨後、土壌水分の多いときに行う。(黒色は雑草防止、シルバーはアブラムシの飛来防止の効果がある。)

敷きわら・灌水

- 梅雨明け後、敷きわらをする。
- 高温乾燥が続くときは、夕方に灌水する。

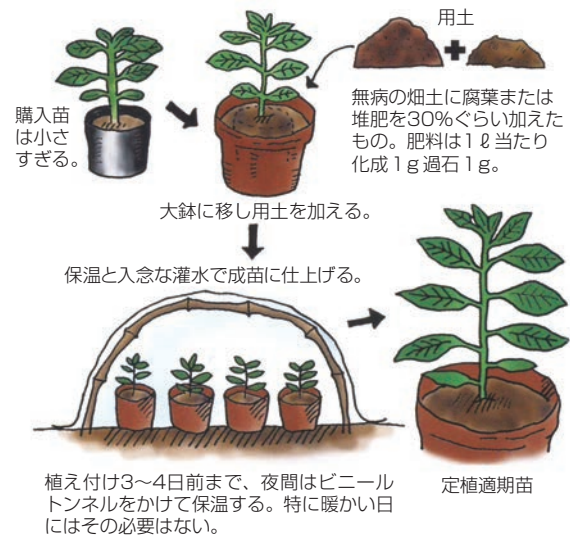


防除

病害虫名	農薬による防除
アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤 とうがらし類 3,000倍 収穫前日まで 2回以内
うどんこ病	ストロビーフロアブル ししとう 4000倍 収穫前日まで 2回以内

育苗

- 購入苗が小さいときは大鉢に移し定植に適した苗に育てる。(本葉7~8枚)



整枝・支柱立

- 一番花(果)の上2本の枝と主枝を残し、盃状に仕立てる。
- 生育が進み込み合ってきたら枝を間引き、日がよく当たるようにする。

収穫

- 熟しすぎると果実が赤くなってしまうので、大きくなったものから早めに収穫する。



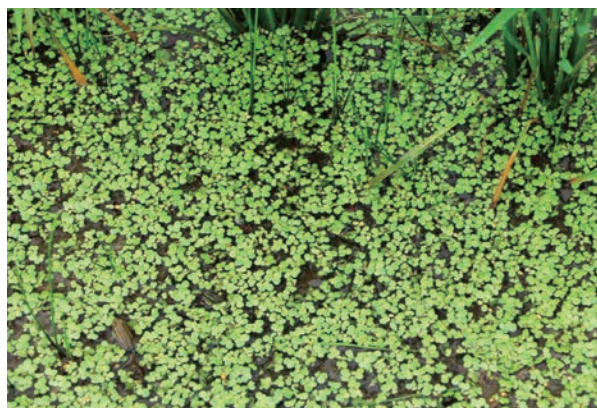
雑草図鑑

ウキクサ・ナズナ

5月の農作業

ウキクサ

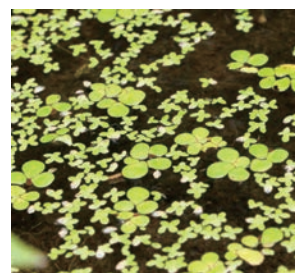
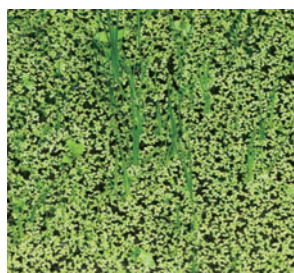
水田や池、沼などの水面に浮かぶ多年草の水草。5月上旬に発生し、7月から8月下旬にかけて最も盛んに増殖する。日光が当たり、水温が高くなるような条件でよく増殖するが、灌がい水とともに流され、水田のような水の停滞する場所に集まり浮遊する。同じく水面に浮遊する小型雑草のアオウキクサとよく混生して発生が認められる。短期間に水面を覆い尽くすことが多い。大きな被害はないが、密生すると水温が低下する恐れがある。



ウキクサ

防除のポイント

適用農薬	10a当たり 使用量	使用時期
モゲトン ジャンボ	20個(1kg)	ウキクサ類、アオミドロ・藻類による表層はく離の発生時 但し、収穫45日前まで 3回以内 水田に投げ入れる



アオウキクサ ウキクサとアオウキクサの混生

ナズナ

畑、冬期の水田、道ばた、庭などにごく普通に生える。踏みつけのある路傍など土壌が締まった場所にも多い。春の七草のひとつとして昔から有名である。別名ぺんぺん草。種子で繁殖する冬生一年草。夏の高温と秋の低温で覚醒し発芽する。10~20℃で発芽が多く、昼夜の温度軸差が大きい条件で発芽率が高い。晩夏から秋にかけて発芽しロゼット状で越冬。春に花茎を伸ばし、3~5月に開花。花が終わると花茎が伸びて平たい心臓型の莢をつける。



休耕田に群生するナズナ

防除のポイント

年内や春先の中耕も有効である。3~4月も出芽するため、ほ場に種子を落とさないよう春期の防除も行う。発生の少ないところは中耕、手取り除草で防除できるが、多発ほ場では除草剤を使用する。



ナズナ (開花期)



心臓型の莢をつけるナズナ

裏面はシトウを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.337 令和元年 5月15日発行